

「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」議事録【抜粋】

会議の名称

第1回「徳島市子どもの学び推進プロジェクトチーム会議」議事録

会議の目的

オンライン授業や一人一台タブレット端末の活用推進を行い、誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実現し、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している。なお、家庭教育の充実・学校教育の充実・遠隔教育の充実を育成の柱と掲げている。

とき

令和4年7月7日（木）15：30～

ところ

徳島市役所11階 1101会議室

出席者

委員9名（大学関係者・保護者代表・小中学校長含む）

事務局5名（徳島市教育委員会）

議題

- (1) タブレット端末の活用状況について
- (2) 今後の方向性について

議事内容（主な意見等）

(1) タブレット端末の活用状況について（事務局からの報告）

- 環境整備が進み、授業やオンライン学習などで活用場面が広がってきたが、学校・教員で格差が見られたり、本質的な授業改善につながっていなかったりする現状もある。
- タブレットの活用時間は増えてきたが、デジタル教科書の使用や家庭学習での使用、学習のなかでの支援ソフトを含めた活用や持ち帰りの意義も考えていく必要がある。
- 機器の不具合、故障、接続環境など、ハード面での対応なども課題がある。
- 今後は、①ハード面の整備、②研修の充実、③小・中学校・保護者への啓発、④MEXCBTへの登録、⑤タブレットを活用した授業改善、⑥持ち帰りのあり方について、共通理解しながら取組を進めていく。

(2) 今後の方向性について（大学関係者・保護者・小中学校長・事務局からの様々な意見）

- 持ち帰った際には、ミライシードでドリル学習を行ったり、メタモジを使って日記を書いたりする課題を出した。タブレットとキーボードを分け、資料集やワーク等は置いて帰るようにした。学校の規模や登下校の状況に応じて対応は変わる。昨年度はZoomで学活を行ったり、国・数・英の授業を配信したりした。夏休みは家庭で使用するようにし、2学期から日常的な持ち帰りができるようにしたい。
- オンライン・オフラインの学習を学びにどう活用するかが大切である。インプット・アウトプットの学びを目的や時間帯によって使い分けるとよい。フィルタリングについては、連携しながら取り組んでいる。
- タブレットの持ち帰りについて、家庭に持って帰っても使わない、持って帰っているだけという意見がある。子どもはタブレットにさわることに興味があり、楽しんでいるが、教科書と一緒にタブレットを持って帰ると重い。機器トラブルが家庭でおきても、どうにもできない。
- 活用が進んでいる学校では持ち帰りが問題とならない。文房具と同じように常に持っている状態へと教員の意識改革や発想の転換が必要である。
- コロナのためだけのタブレットではない。一人一人の子どもが主役であり、力をつけ幸せになるためにタブレットを活用する。今後さらにブラッシュアップし、HPでの発信やタブレットを使用した授業参観など、保護者への周知・啓発もできるといい。
- 理想的な姿と現実の間を埋めていくのが教育の営みである。学校・保護者・教育委員会・関係機関等が連携し、学校長のリーダーシップのもと、子どものための教育を考え、取組を進めていきたい。